

思春期を見通した

子育てを…

子どもさんの言葉やしぐさがかわいらしい時期です。同時に自己主張や秩序の敏感期で「いや」ということも増えてきました。さあ、これからどんな対応をしていくか楽しみだつたり、不安だつたりされているふうに思います。

そんな時期にこそ、読んでいただきたい本の紹介です。

「はじまりは愛着から」

佐々木正美 著

人間が「人を信じ、自分を信じて」生きていくための基本的な感情が愛着です。子どもが母親に抱く愛着感情は、母親の顔色をうかがいながらおつたり話したりしなくてはならない環境では、決して身につきません。望んだまま愛され、本音でものが言えるように育てられて初めて、愛着の感情は子どもの心に豊かに育つてこきます。

では、本音で親と話し、心から安心して親を信じて日々を生きてこなすために育てるには、いったいどのような気遣いが必要なのでしょうか。

親と子の関係は、自分が望むような子じむに育てたいという親の気もむと、望むだけ愛情をくれる親がほしいという子じむの気もむと、それがはじぶつかりあう葛藤の連續です。

しかし、基本的ないじれで、親は教育者ではなく、保護者としての心得が豊かでなくてはなりません。

子どもが悪いことや危険なことをしていぬと、ひのよいに注意すればいいのか考へてみぬしょ。大切なのは、子どもの自尊心を傷つけることがないように、悪いことは悪い、いけないことほりに、もの存在そのものを否定したり、頭かじぱりとばしたりしてはこけませよ。

反対に、親が望んでいるじいをしているときにも、大きさではなく、穏やかに励ましよに褒めましょ。

何よりも「親が望む子じむ」に育てるのではなく、「子じむが望んでいる親」になると、じつは子じむの心をもつともうして、成果を急がず、ゆっくりと育てたいものです。

親が自慢したくなる子じむに育てるにじこら、じつは子じむの心をもつともう傷つけてくる子育てなのです。



福音館書店 出版